

施設の短期中期のサービス向上への取り組み

1. 社会福祉法人として、利用者の満足を追求する
 - 1) 快食・快便・快眠の促進を追求し、専門職としての質を高め、サービスの質の向上を図り、個別ケアプランに反映する。
 - ・安全に美味しく口から食べていただくために、口腔リハ専門医の関わりを更に充実する。
 - ・快適な排泄にむけた個々の排泄把握と対応の取組み
 - ・快眠を意識した環境と支援の取組み
 - 2) 主体的な生活の組み立ての支援を個別支援計画に反映する。
 - ・ご利用者の生活スタイルや生活リズムに沿った支援の取組み
 - 3) 安全な生活環境の取組み
 - ・事故報告、ひやりハット報告から得るリスク要因の検証や感染症等のリスク回避のための手順を共有する取組み
 - ・災害に備える(備品の整備と防災訓練等での実践による意識向上、福祉避難所としての備え)および防犯等に関する対策を講じる。
2. 社会福祉法人として、家族支援・地域支援の拠点となる
 - 1) 地域の役割づくりにむけて、「10年後,20年後に自身が安心して暮らせる地域にする」ための支援として、専門職からの情報発信ができる場面の設定。(法人事業「安心シニア塾」等の活用)
 - 2) 施設機能を活かし、地域高齢者の健康維持のための活動(健康体操等)の充実
 - 3) 新しい総合事業にむけて介護予防(推進事業・地域デイ)・生活支援(食事サービス等)の整理と実行
 - 4) 地域包括支援センターは、実態把握を踏まえて自ら発信できない方々の代弁者としての役割を遂行する。
3. 社会福祉法人として核となる職員の定着・安心の実現
 - 1)法人の人材育成のシステムとしてある、チャレンジプランや OJT を利用してひとりひとり職員の支援と育成を行う。
 - 2)心身の健康管理にむけ、心のケアを取り組める専門機関の導入を検討する。
4. 社会福祉法人としての経営体制の確立
 - 1)目標稼働率の達成と無駄のない適正支出に努めるとともに、人件費の負担を軽減するため、常勤・非常勤職員の適切な人員配置を目指す。

施設の取組

1. 地域の居場所・活躍の場づくりとして、施設の活動(昼食会参加者のサロン活動・サークル参加・映画会等)や法人安心シニア塾を通じて活躍の場面を持ってもらえるよう取り組む
2. 快食・快便・快眠の促進を追求し、専門職としての質を高め、サービスの質の向上を図る。
3. 安全な生活環境にむけ、事故報告、ひやりハット報告等から得るリスク要因の検証とリスク回避のための手順を共有する取組み
4. 災害に備える(備品の整備と防災訓練等での実践による意識向上、福祉避難所としての備え) および防犯等に関する対策を講じる。
5. 環境整備として、東館空調設備の改修に取り組む。